長野市民病院から〈知っておきたい〉医療の知識 191

年齢のせいにせず受診を

笠井 俊夫
循環器内科部長、心臓血管センター長＝専門は循環器

心臓病には多くの種類があり、原因によってさまざまな症状が出ます。心臓病が疑われる自覚症状について説明します。

①狭心症に伴う症状

心臓の筋肉に血液を送る「冠動脈」が動脈硬化で細くなり、心臓の一部に血流障害・酸欠状態が生じる病気で、胸痛がみられます。

胸全体が圧迫されるような症状のことが多く、時には顎や腕に放散痛と呼ばれる痛みが出ます。体を動かしている時、寒い所へ出た時などに出現することが多いです。

安静にしていれば数分で改善することが多いですが、その場合でも早めに医療機関を受診しましょう。特に回数が増えたり、持続時間が長くなったりしたら緊急処置が必要な場合があるので、救急医を受診してください。

②不整脈による症状

多くの場合、胸がドキドキする動悸がみられます。不整脈にもいろいろな種類があり、緊急対応が必要なものもあります。

頻度が少なく数秒間だけの動悸であれば多くの場合は心配ありませんが、数分間以上持続する動悸があるときは早めに医療機関を受診しましょう。めまいやふらつき、息切れ症状などを伴うときは、緊急処置を必要とする場合があります。救急医を受診してください。

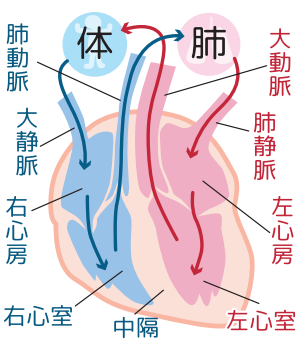
③心不全による症状

心不全は、心筋梗塞、弁膜症、心筋症、不整脈などの疾患が原因となり、心臓のポンプ機能が低下して、それに伴う症状が出現している状態をいいます。

心臓は中隔と呼ばれる壁で左右に分かれています。右半分は全身から戻ってきた血液を肺へ、左半分は肺から戻った血液を全身へ送り出しています。心臓のポンプ機能が低下すると血液が心臓に戻りにくくなり、上流の血管で血液が渋滞（うっ血といいます）します。

心臓の右半分の機能が低下すると、全身からの血液が心臓に戻りにくくなり、液体成分が血管内から周囲に漏れ出て、浮腫（むくみ）を形成します。むくみは主に膝より下の足に出ます。

心臓の左半分であれば肺から心臓に血液が戻りにくくなり、肺が水っぽくなります（肺水腫といいます）。その結果、息切れや呼吸困難が出現します。また心不全では心臓から全身に送り出される血液も減るので、倦怠感や手足の冷えが出ます。

以上の心臓病の症状は、軽症の人では息切れや呼吸困難を早足歩行や坂道歩行などの時に感じる程度という場合も多く、年齢のせいにして受診しない人が少なくありません。エックス線検査や血液検査だけで診断がつく場合が多いので、小さな症状でもかかりつけ医に相談しましょう。

心臓病の症状